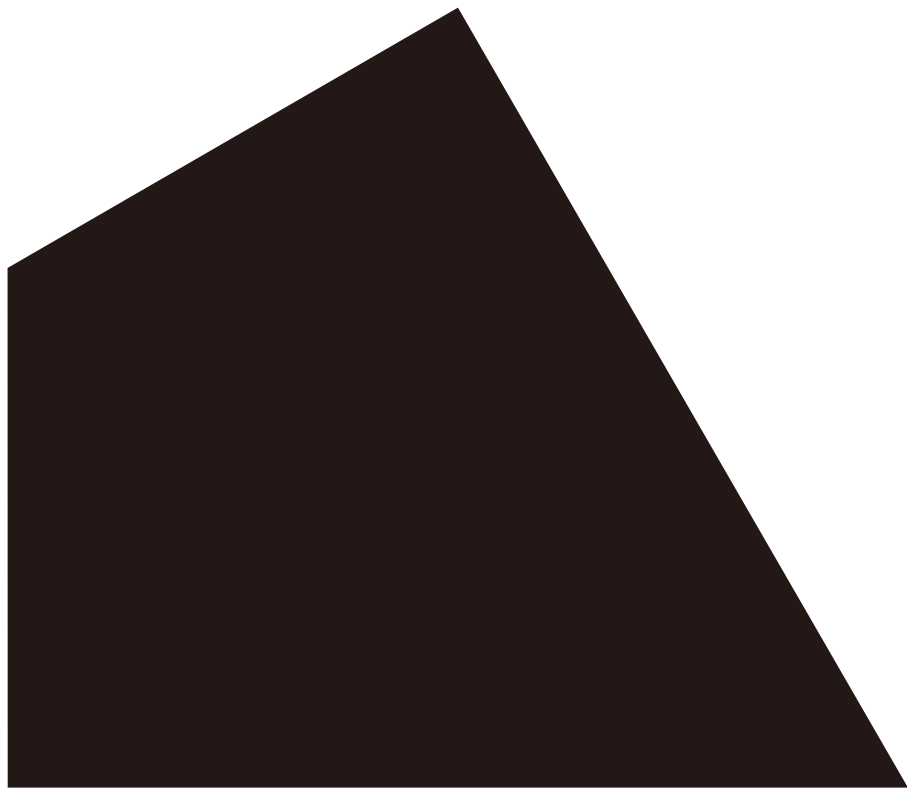


文
化

Culture



一座きょうと オープニングイベント 茶道・華道

本日はようこそお越しくださいませ、ありがとうございます。

京都ゾーンのオープニングを飾るのは京の伝統文化、茶道と華道のおもてなしです。

ゾーンのテーマである、客と亭主が心通わせる「一座建立」の精神をぜひ体感してください。

ICHI-ZA KYOTO Opening Event – Tea Ceremony & Flower Arrangement

Thank you very much for coming today. The opening of the Kyoto zone welcomes visitors with displays of traditional Kyoto culture, tea ceremonies, and ikebana flower arrangements. We invite you to experience firsthand the spirit of ichi-za konryu, or “fostering deep communication and understanding between guests and the host.”

1 武者小路千家 官休庵
Mushakoji Senke Kankyuan

2 華道家元 池坊
Ikenobo Ikebana

武者小路千家 官休庵

武者小路千家は茶の湯を大成させた千利休の血脈と伝統を現代に受け継ぐ流儀の一つです。流儀の本拠地である京都の家元の屋敷が武者小路通に立つことからこの名が付いています。

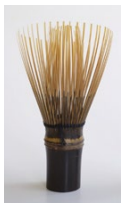
官休庵の名について

官休庵とは武者小路千家の初代である一翁宗守が建てた茶室の名前です。茶の湯の世界では主な茶室の名前をその亭主である個人や家、あるいは流儀の呼び名として用いる風習があります。

武者小路千家の特徴

茶の湯における所作は無駄がなく、洗練された美しさを備えています。特に武者小路千家ではその動作を行う意味が大切にされ、合理的な考えに基づいた点前が追求されています。

用いる茶筴は黒竹あるいは紫竹でできており、穂先は開いた形をしています。

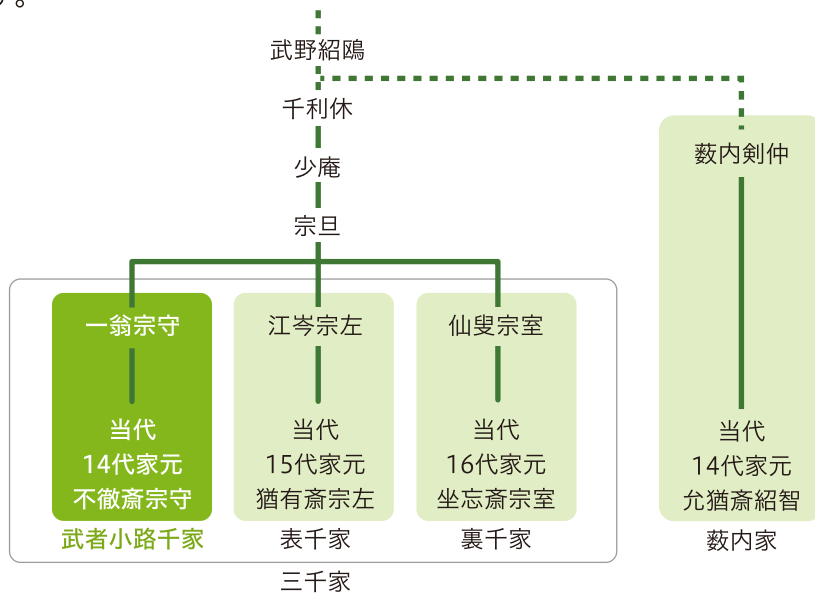


薄茶はお茶の風味が活きるよう、茶筴を軽やかに振り泡は少なめに点てられます。



武者小路千家 官休庵

500年以上の茶の湯の歴史の中、才能豊かな茶人を祖とした様々な流儀が形成されました。流儀により異なる特徴が茶の湯文化の豊かさをもたらし、茶の湯が魅力ある文化として大切にされてきた結果、内包する多くの日本の伝統や慣習も現代に残りました。日本全国各地にある流儀の中でも、千利休の血脈を受け継ぐ三つの千家「三千家」や、利休の兄弟弟子から続く「藪内家」など、主要とされる流儀の家元はいずれも京都に拠点を置いています。



華道家元池坊

命を見つめ、命を生かす。-池坊いけばなの精神-

「いけばな」は、池坊から始まりました。

いけばなは、587年創建の京都・紫雲山頂法寺(六角堂)で、僧侶が仏前に花を献じていたことから始まったと言われており、約1400年の歴史があります。

池坊には「枯れた花にも華がある」という理念があります。いけばなは、美しく咲いた花を単に賞翫するだけでなく、蕾は未来を暗示するもの、枯れた草木は生きてきたプロセスを経たものとして捉えます。草木が四季折々に見せる姿に美を見いだすこと、それが、池坊の花をいける心であり、大切な理念です。



華道家元池坊 公式WEBサイト

池坊いけばな 3つのスタイル



立花



生花



自由花

華道家元池坊

いけばな発祥の地『六角堂』

池坊の本拠地は、587年に聖徳太子が建立したと伝えられる京都の紫雲山頂法寺にあります。本堂の形が六角形であることから、古くより「六角堂」の通称で知られ、親しまれています。

初代の住職は、遣隋使の小野妹子と言われており、代々池坊の家元は六角堂の住職も務めています。

京都の中心といわれる「へそ石」や平安時代から願をかけると良縁に恵まれると言われていた「縁結びの六角柳」、我々の暮らしや子供を守る「十六羅漢」や「お地蔵さん」があり、見どころも満載です。是非、京都・六角堂へお越しください。



紫雲山頂法寺(六角堂)

住所: 〒604-8134 京都府京都市中京区六角通東洞院西入堂之前町248

拝観時間: 6:00~17:00

拝観料: 無料

華道家元池坊

「華道」無形文化財登録

日本国における文化財保護の制度として、2021年6月に無形文化財としての登録制度が新設されました。

生活文化に係る歴史上の意義、文化的に高い価値があるとして、2024年12月に「華道」が国の無形文化財として登録されました。

華道・いけばなの持つ精神性、そして伝統的な技術や道具類など付随する文化の次世代への継承、更なるいけばな文化の普及発展に寄与するべく、我々は活動을 続けて参ります。



華道の無形文化財への登録について
「文化庁広報誌 ぶんかる」

華道家元池坊

いけばなの根源池坊展「TRANSITION」

多重の「うつろい」、「変遷」が折り重なる「時空間に展開するいけばな展」



ギャラリーEASTにて、いけばなの根源池坊展を開催しています。

次期家元 池坊専好の大作をはじめ、世界へ華道文化を紹介することを目的とした「いけばなの変遷」を辿る作品と、万博テーマでもある「いのち」を表現するデジタルといけばなとのコラボ大作インスタレーション。今までにない洗練された新しい“いけばな展”をご覧ください。

是非、ご来場ください。



いけばなの根源池坊展「Transition」

会場 ギャラリーEAST

会期 4月13日～20日

前期:4月13日～16日 後期:4月17日～20日

10:00～20:00(※16日は18:00、20日は17:00で閉場)

入場予約:不要



京瓦「キモノタイル」に覆われた 空間デザインと映像・音楽によるノンバーバル表現

オリジナルの京瓦「キモノタイル」によって
質感を統一したミニマルかつ静謐な空間を通じて、
来場者がじっくりと京都の未来と過去に
向き合えるような体験を創出します。
さらに、そこに加わるノンバーバルな映像と音響は、
空間と一体となりながらその多面的な魅力を物語ります。



映像紹介

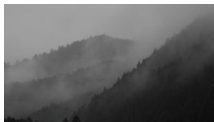


今日庵の窓

撮影地：裏千家 今日庵（京都市上京区）
協力者：裏千家 今日庵



大輪の菊



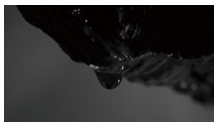
雨が降る深山

撮影地：南丹市美山町



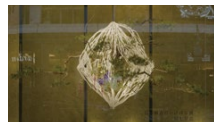
春の和菓子

撮影地：京都市下京区
協力者：京菓子司 末富



岩盤から滲み出る清水

撮影地：京都府船井郡京丹波町



商業施設の中の活花作品と 街の雑踏

撮影地：大丸京都店（京都市下京区）
協力者：華道家元池坊



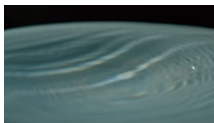
お茶をいただく人

撮影地：無鄰菴（京都市左京区）
協力者：植彌加藤造園株式会社



鋭利なハサミが枝を切る

映像紹介

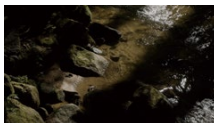


水盤の波紋



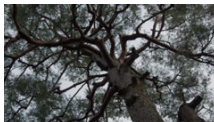
うねる海面

撮影地：京都府舞鶴市



山間を流れる溪流

撮影地：京都府宮津市



ダイナミックな松の枝

撮影地：京都御苑（京都市上京区）



柄杓で釜からお湯をすくう

撮影地：無鄰菴（京都市左京区）

協力者：植彌加藤造園株式会社



江戸時代の立花図集

撮影地：いけばな資料館（京都市中京区）

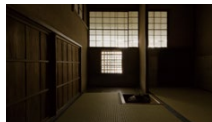
協力者：華道家元池坊



立花の作品

撮影地：いけばな資料館（京都市中京区）

協力者：華道家元池坊



点前座から見た今日庵茶室

撮影地：裏千家 今日庵（京都市上京区）

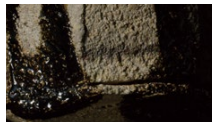
協力者：裏千家 今日庵

映像紹介



赤く燃える炭

協力者：一般社団法人茶道裏千家淡交会
木下 宗佳



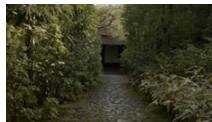
樂茶碗のディテール

撮影地：樂美術館（京都市上京区）
協力者：公益財団法人樂美術館



今日庵の壁に落ちる陽光

撮影地：裏千家 今日庵（京都市上京区）
協力者：裏千家 今日庵



今日庵 兜門からの露地

撮影地：裏千家 今日庵（京都市上京区）
協力者：裏千家 今日庵



樂茶碗

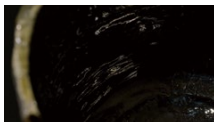
「十五代直入焼貫黒樂茶碗女媧
(1993年制作)」(公益財団法人樂美術館蔵)

撮影地：樂美術館（京都市上京区）
協力者：公益財団法人樂美術館



ススキ野原

撮影地：京都府宮津市



樂茶碗の見込(内側)

撮影地：樂美術館（京都市上京区）
協力者：公益財団法人樂美術館



降り積もる雪

撮影地：京都市中京区

じゅんおんはいけい

巡音拝景

京都府の今の音と、文献などに記述された音をあつめ、
そこに新たな音を配置(Composition=作曲)して制作する。

1996年に環境省(当時環境庁)は「全国各地で人々が地域のシンボルとして大切にし、将来に残していきたいと願っている音の聞こえる環境(音風景)を広く公募し、音環境を保全する上で特に意義があると認められるもの」として「残したい“日本の音風景100選”」を選定した。それから約30年が経ち、改めて京都府の音を取り上げる。温暖化が加速し、四季が失われつつある現代において山や森林など木々は大変重要で貴重なものである。京都府には豊かな自然があり、美しい音が存在している。自然がこれからも失われないことを祈りながらフィールドレコーディングをした。前述の「音風景100選」で取り上げられたものに加え、新録している。

さらに文学の中にも多くの音の記述がある。録音技術が生まれる以前には古来から人々はことばを使って音を集めた。こういった音を集めることもフィールドレコーディングである。

フィールドレコーディングリスト

Part-1 るり溪(南丹市) 船着場(伊根町) 舞鶴港(舞鶴市) 宮津湾(宮津市) 石清水八幡宮(八幡市)

Part-2 京都御所玉砂利(京都市) 清水寺(京都市) 鹿(京都市) 大江山(福知山市) ちりめん街道 天満神社(与謝野町)

Part-3 琴引浜(京丹後市) 琴滝(京丹波町) 宇治川(宇治市) 真福寺水琴窟(亀岡市) 妙心寺(退蔵院) 水琴窟(京都市)

Part-4 綾部大橋由良川(綾部市) 美濃山竹林(八幡市) 興聖寺(宇治市) 古世親水公園(亀岡市) 詩仙堂鹿おどし(京都市)

御香宮神社(京都市) 雷雨(京都市)

記述されたものからのフィールドレコーディングリスト

大原『平家物語』 鐘の音、鹿の音、虫の音

野宮『源氏物語』 虫の音、松風の音、雅楽の楽器の音

宇治『万葉集』 宇治川にして作る歌二首 1699-1700 雁の鳴き声、川の音

法成寺『栄花物語』 卷第十七「おむがく」 雅楽の演奏音

丹後『丹後国風土記』 逸文 嘆く声、歌

福知山『大江山絵詞』 雷、田楽

石清水八幡宮 世阿弥 能『弓八幡』、『放生川』 不思議な音楽、夜神楽の音

法勝寺『弁内侍日記』 後戸猿楽、鈴の音

谷崎潤一郎 潺湲亭「夢の浮橋」 添水(しおどし)の音

琴弾浜 木内石亭『雲根志』 海辺の砂浜の音

『蜻蛉日記』 車の音

『洛陽田楽記』 永長の大田楽

作・編曲:原 摩利彦

ギター:Polar M

フィールドレコーディング協力:村中真澄

リサーチ協力:原 瑠璃彦

音響デザイン:中原楽(KARABINER inc.)

株式会社 大城音響事務所

制作:MH Studio Inc. / TSUYURI

空間デザイン協力	Space design cooperation
Sandwich	Sandwich
京瓦タイル「キモノタイル」製作協力	Kyoto tile "Kimono tile" production cooperation
株式会社京瓦 浅田製瓦工場	ASADA KAWARA FACTORY
テーマ映像制作	Theme video production
株式会社 青空	AQZORA,LTD
テーマ音楽制作	Theme music production
原 摩利彦	Marihiko Hara

大阪・関西万博きょうと推進委員会